

# ほん せかい 本の世界へ よ — みんなで読もう! —



『かぜがつよいひ』  
作：倉田 弥子  
絵：シゲリ カツヒコ  
出版社：くもん出版

かぜがつよくふいている白のこと、女の子ととうとがいえの中でしりとりをはじめました。「しんぶんし」「しゃつ」「つりざお」と言うと、いえのそとで、かぜの中をしんぶんしがまい、つりざおにひっかかったしゃつがはためきます。とうと、うちまでもそらにうかびあがります。いったいどうなるの？



『ひとりだちするきたきつねのこども』  
絵・文：手島 圭三郎  
出版社：絵本塾出版

春に生まれた、きたきつねのこどもは、秋になると、ひとり立ちの日をむかえます。お母さんに「つらくても帰ってきてはだめ、いっしょうけんめい生きなさい。」と言われ、家族と別れたきたきつねのこどもは、えものをとろうとしますが、うまくいきません。ぶじに生きのびることができるのでしょうか。

『おさるのしま』  
作・絵：いとう ひろし  
出版社：講談社

みなみのしまにすむおさるたち。みんなでなかよくくらしていますが、ある日、もりのおくから、今まできたことのないおそろしいこえがひびいてきました。「わからないままこわがっていると、どんどんこわくなるんだよね」と考えて、おさるたちはゆうきを出して、こえのしょうたいをさぐりにいくことにします。



『物語たくさんのお月さま』  
作：ジェームズ・サーバー  
出版社：徳間書店

むかし、ある国にレノアひめという10さいになるおひめさまがいました。あるとき、レノアひめはびょうきになり、「お月さまをもらったら元気になる」と王さまにいました。けれどもお月さまをとりにいける人はだれもいません。そこへひとりの道化師がひめの前にあらわれ、「すぐにとってきてさしあげます」といいました。



『しらとりくんはてんこうせい』  
文：柊野 浩一  
出版社：あかね書房

おれの学校に、てんこうせいのしらとりくんがやってきた。色白で、せがたかくてひょろっとしている。しらとりくんは、算数は好きだけど、サッカーは好きじゃないらしい。おれとは正反対なところばかりで、おれは、ふしぎなしらとりくんのことを知れば知るほど、どんどん気になっていく。正反対の二人はともだちになれるのでしょうか。



『車のいろは空のいろ白いうし』  
作：あまみ きみこ  
絵：黒井 健  
出版社：ポプラ社

タクシーうんてん手の松井さんは、仕事に車のタイヤがパンクをしてこまっていた。すると、ふらりとやってきた男の子が、軽々と車を持ち上げ、タイヤ交換を手伝ってくれました。松井さんはおどろきつつも、お礼に男の子を車に乗せてあげることにします。松井さんのタクシーには、今日もふしぎなお客様が乗ってきます。

おうみはちまんとしょかん おうみはちまん しきょういくいいんかい じむ きょく

近江八幡図書館 / 近江八幡市教育委員会事務局

しょうがいがくしゅう か

生涯学習課

